

雪女⑥

- (1) 「くるか、えーい」見せ物小屋にあはれこんだ銀次は、うつてかかる男たちを十手であべこべにたたきのしました。女ツナワタリのオソノは
- (2) 「ちくしょう、よくもかぎつけてきたね。生かしてはかえさないよ」と、短刀をぬいて向かってきます。「よしな、雪女の正体はお前さんだとわかつてるんだ」
- (3) 「えーい」「あーっ」とびこんでいつて、オソノのもつた短刀をなんなくうちおとした銀次は、雪女がおとしていったオマモリブクロをだして
- (4) 「これはお前さんのものだろう。お前はこの江戸のうまれだが、何でニセモノの太夫になんかなつて、旗本の村杉をねらったんだ。わけを話してみないか」
- (5) 「村杉をころしにいつて居なかつたので子供をさらつたが、かあいいので杉村のかわりにころすことができず、この小屋にかくしてあることはちゃんとわかつているんだ」いわれてオソノは「すみません。じつは」
- (6) 「私の父が今から十五年前に村杉にブレイうちにされたのです。侍にころされれば町人はしかえしもできず、ころした村杉はツミにもならないのがくやしくて、カタキウチをしようとなっていたのです」
- (7) 「オソノさん、カタキウチはやめなさい。侍がいはつている今の世の中がわるいんだ。そこのへんくらいころしたつて何にもなりはしない。子供さえかえれば、こつちはそれでいいんだよ」「はい、わかりました」
- (8) 銀次は村杉に子供をかえして「わけも何もいえません。雪女はきえていきましたよ」と話しました。「フームそうか、すまなかつた。銀次、礼をいうぞ」
- (9) いつか朝になつていました。「竹や、これからかえつて朝湯にはいつてぐつすりねるとしようか」「へへ、そうしましよう。事件が片づいたんですからね」(全巻のおわり)